

カンボジアから
帰国した後に感じたこと

で私はカンボジアに行き、仕事と関連した現地調査として、このシアヌークビルに入ることとなる。プロンペンから車でおおよそ7時間ほどかかる陸路での移動だった。途中、舗装道路になつていない悪路を行道路にするための工事が広範囲にかなっていた。私の目に見える光景はまさに中国がカンボジアに造

一番大きな原因はカンボジア内で横行していたオンラインカジノをカンボジア政府が禁止して検挙するようになつたため、いわゆる不良中国人が出国したことによるそうである。外国資本に依存し過ぎると大きな影響を受けかねないという真実をさまざまと見ることとなり避けでは通れない昨今の我が国のある。実情とも共通している。

地元の生徒や父兄から「近くに寄らないように」と邪険に扱われた事例があったことを思い出す。誰一人として原子力発電所の爆発を願つた者はいない。毎日当たり前のよう親しんできた生活環境から突然離れざるを得なくなり、大きな不安を抱えて生活をせざるを得なくなつた小学生などに対し、「異なる者」が突然近づいて来たとして拒絶反応を示す背景事情と今

状況に陥った原因がその当事者ではない。にもかかわらず、これを排斥する風潮が後を絶たない。私たちは「共生」という考え方を持つて日々の生活を歩もうとできず、所詮、他人事と決め込んで当たり障りのない無関心を続ける国民性からなかなか抜け出せない。このことはすでに歴史が証明しているのかもしれないと言わざるをえない。

新型コロナウィルス感染症の報道がすでになされ始めていた令和2年2月初旬、私は仕事と関連してカンボジアを訪れた。アンコール遺跡群の一つとして有名なアンコール・ワットがあるシェムリアップという都市はとても素敵な都市であった。さすがにプノンペンは首都だけあって札幌市よりも数十万人ほど人口が多い大都市であったが、シェムリアップは昔の東南アジアの雰囲気を残す心が落ちつく都市であるシアヌークビルではコロナウィルスに感染した人が1名出たとの報道が日本で出ていた。そういう中

り上げようとしている都市さまであった。南シナ海領有権問題で強硬姿勢を貫く中国は、カンボジアにほしいままに利用できる港を確保しようとしていた。中国資本の企業が数多くのマンションやカジノが入るホテルを建設中であつたが、大半の建設工事は止まつてしまつていた。シアヌークビルの人口は公表された数値としては 10 万人ほどと言われているが、その他に 5 万人ほどの中国人がシアヌークビルに入ってきたとされている。そのうち、5 万人のカンボジア人と大半の中国人がシアヌークビルから消えてしまっていた。その原因の一つはコロナウイルスであろうが、

ドンムアン空港から新千歳空港に戻ってきた後は、毎日、コロナウイルスに関する政府の答弁や専門家と称する方々の意見を1日中見たり聞いたりすることとなる。

その中で、感染症指定医療機関に勤める看護師のお子さんと同じ幼稚園に通う子を持つ母親が、その看護師の子を幼稚園に通園しないようにクレームを入れるという動きも出てきたと聞く。もちろん、その看護師はコロナウイルスに罹患しているわけではなかった。このような報道を聞くと、以前、福島第一原子力発電所事故の後、付近の県にいわゆる疎開することとなつた数多くの小学生などに対し、

一般的のコロナウイルス報道で起きた拒絶反応を示す背景事情とはまったく同じである。日々の生活の中で、いついかなる場所にて罹患するか分からぬ不確実な状況に私たちちは置かれている。そのような状況の下、感染症指定医療機関にて医療に従事する人々に対し、自分が子がコロナウイルスに少しでも罹患しないようにと、その子の通園を遮ろうとする親は、万が一、コロナウイルスに罹患した場合、その指定医療機関から拒絶されてもいいのであろうか。私たちは、日々、さまざまなことに不安を感じて生活をしている。何かに怯え、何かを怖れで生活をしている。しかし、かかる状況に陥った原因がその当事者ではない。にもかかわらず、これを排斥する風潮が後を絶たない。私たち「共生」という考え方を持って、他人事と決め込んで当たり障りのない無関心を続ける国民性からなかなか抜け出せない。このことはすでに歴史が証明しているのかかもしれないと言わざるをえない。